

ダイヤモンドが合成できる技術とは？



衝撃波と高温を利用する材料開発

崇城大学には、爆薬を用いた理化学実験を行える施設があり、“理化学実験に爆薬を直接扱える”という点では国内の大学では2カ所に限られます。爆薬は、ビルなどの構造物を破壊するときや、トンネルを新たに造るときに岩盤を掘り進めるのに多用されてきました。このような爆薬が持つ大きなエネルギーを小さな容器に閉じ込めて一点に集中させたり、少し広い面積に向けて放つと、通常的环境下では得られにくいものが容易に作製できます。有名などころでは炭素から「ダイヤモンド」を合成することが挙げられます。友重研究室では金属・セラミックス材料を中心に、特殊合成法や特殊加工法を利用して既存の素材とは異なる特性のものを創製することに力を入れています。現在は、放射線の漏洩を高度に防御するための「セラミックスと金属を組み合わせた特別な材料」の創製に取り組んでいます。エネルギーの応用にあらゆる可能性を馳せ、世界をあっという間に驚かすようなものを作りたいですね。

工学部 ナノサイエンス学科 **友重 竜一** 教授



崇城大学

SOJO UNIVERSITY

薬学部	生物生命学部	工学部			情報学部	芸術学部			
薬学科	応用微生物工学科	応用生命科学科	機械工学科	ナノサイエンス学科	建築学科	宇宙航空システム工学科	情報学科	美術学科	デザイン学科

〒860-0082 熊本市西区池田 4-22-1

問い合わせ(入試課直通) TEL:096-326-6810

そうじょう大学 [検索](#)